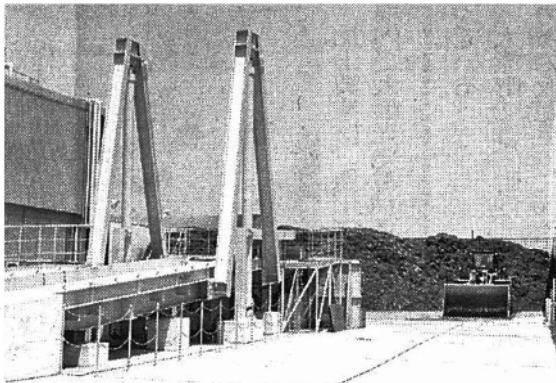


三重県最大級の木質発電所

グリーンエナジー津

県下3カ所目、国産チップは5万t

グリーンエナジー津（津市、金森聖二社長）が建設を進めていた木質バイオマス発電所が完成し、7月1日から商業運転を開始した。グループ会社であるJFEエンジニアリング製のプラントを採用しており、発電出力は約2万キロワットと三重県最大級の木質バイオマス発電施設となっている。同県では、2014年11月から安定稼働を続ける三重エネウッド（出力5800キロワット発電所）、今年6月から動き出した中部プラントサービスの発電所（出力6700キロワット）に続く3カ所目のFIT発電所に当たる。JFEエンジニアリングの津工場内に建設された同発電所の敷地面積は約2万平方メートル、うち約1万平方メートルにプラント関連設備を、残る敷地に燃料ヤードを



発電所隣接の屋外ヤード

設けた。屋外ヤードに3万6000立方メートルを予定。の内訳は、

屋内ヤードに5400立方メートルの燃料を貯留（2カ月分）でき、主燃料となるPKSは年間10万トン活用し、国産チップは5万トン、国産チップは5万トン、山林未利用材を2万5000トン、製材端材・工事支障木といった一般木材が2万5000トンとなっている。将来的には、「国産材とPKSの投入量を半々にしていきたい」としている。各燃料の発熱量は、PKSが1キロワット当たり3400キロワット、木質チップが同2000キロワットを想定している。JFEエンジニアリング製の循環流動層（CFB）ボイラーは、全国で建設実績がある。

JFEエンジニアリングは、過去にはセメントや製紙メーカーに、建廃チップや廃プラ、廃タイヤ、RPFといったさまざまな燃料に対応可能な施設を手掛けてきた。FIT施行（12年7月以降、木質バイオマス燃料を燃焼する大型発電施設としては、▽しまね森林発電（出力12万7000キロワット）▽昭和シェル石油（同4万9000キロワット）▽イーレックスニューエナジー佐伯（同5万キロワット）——などで採用されており、現在も数件の計画先で建設を進めている。（関連記事1面）